

岩トレ 三浦半島：鷹取山

- ◆日程 2019年8月24日(土)
- ◆メンバー L：須田、岡村、佐藤、西山、大塚
- ◆天候 晴

先週の広沢寺に続き、今回は鷹取山で岩トレだ。京急追浜駅から歩いて程近く、アクセスが抜群。石切り場跡のため、壁面は平らで垂直なところが他のクライミングゲレンデと異なる。千葉の鋸山も石切り場跡として有名だ。

追浜駅裏手から鷹取山へ、前日の雨のため森は湿っており、山頂に着くまでに汗だくになった。先ずは展望広場近くの後浅間エリアだ。ビギナーフェースに岡村さんがリードで登り、須田Lと支点確保、私も続いて取り付いたが、垂直で指の引っ掛かりの悪い砂岩質の壁面は広沢寺とは勝手が違う。懸垂下降後、トップロープで登り始めた場所は壁面が湿気を帯びて粘土のような感じで滑りやすい。



皆ウォーミングアップが済んだところで、親不知エリアへ。既にベテランクライマーたちが、昇降している。展望台上り、アルパイントレーニング向けのルートにトップロープをセット(写真上)。順に懸垂下降。次いで、トップロープでのクライミング。右隣では5人程のベテランたちが人数分以上のロープを垂らしてフリークライミングコースを独占している。さすがに皆上手いが、合間に草取りをしている。



この主(ぬし)なのだろう。彼らのコースを登らせてもらうには顔パスが必要なのかも知れない。

お昼休憩を挟んで不知エリアに。本日のメインである電光クラック上にトップロープをセットし、懸垂下降。次いで、いよいよ皆でチャレンジだ。岡村さん、須田Lと順にクリヤ(写真下)。深いクラックに腕ごと突っ込むとのことなので、時計をはじめ余計な装備は外してから登る。はじめ取り付きにくかったため、カンテに左手を掛けて登り始める。それでもクラックまでが一苦勞。壁の孔径は指の太さよりも大きくしかも浅い。それでもボウリングの球を掴むようにホールドするしかない。皆のアドバイスで足場を見つけながらなんとかクラックに到達するも、既に掴む力が無い。しかもクラックは深く、指の引っ掛かりがない。腕を突っ込んで手首や肘関節全体でホールドしながら何とかクリヤ。須田Lの「(どんな

ものかは) やってみれば分かる」の意味が分かった。

次はベテランたちが登っていたエリアに挑んでみたい。

(記：大塚)

CT:鷹取山 8:15/15:00 (後浅間エリア 8:30/10:30 - 親不知エリア 10:30/12:30 - 子不知エリア 13:10/14:50)